



<http://www.hcr.or.jp>

Int. Home Care & Rehabilitation

CONTENTS

15か国・1地域からの585社・団体の最新の福祉機器20,000点を総合展示!	1
第41回 国際福祉機器展H.C.R. 2014 出展社・団体案内	2
H.C.R. 2014 開催プログラムの内容	4
H.C.R. 2014 開催プログラムタイムスケジュール	6
【特設会場の紹介】 障害児のための「子ども広場」	10

【特設会場の紹介】 高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー ～旅を楽しむ「10のコツ!」と便利なグッズ展～	13
【特設会場の紹介】 福祉機器開発最前線	16
H.C.R. 2014 会場のご案内	20

編集・発行：一般財団法人 保健福祉広報協会
 Publisher : Health and Welfare Information Association
 住所：〒100-8980
 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
 TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798

ご来場ありがとうございます

15か国・1地域からの585社・団体の最新の福祉機器20,000点を総合展示!

総面積5万平方メートルを超える6つのホールに、約20,000点の福祉機器が展示されています。

ご覧になりたい機器のゾーンを優先して見学してください。

H.C.R. 2014・プログラム (会場はいずれも東京ビッグサイト内)

【プログラムNo.1】国際シンポジウム：
ヨーロッパ諸国の認知症政策の現状を
踏まえ、課題に挑む
～認知症への理解拡大と日本の支援活動の
充実のために

日時 2014年10月2日(木) 13:00～16:00《会期2日目》

会場 会議棟6F

【ヨーロッパ諸国の状況報告】
ジョージ・W・リースン 氏
オックスフォード大学高齢者研究
所副所長、同大学ケロッグカレッジ
上級研究員、コペンハーゲン大学
客員講師



ジョージ・W・リースン 氏

【日本の状況報告】
服部 安子 氏
社会福祉法人 浴風会
浴風会ケアスクール校長



服部 安子 氏

【チャーター】近藤 純五郎 氏

一般財団法人 医療経済研究・
社会保険福祉協会理事長、弁護士、
元厚生労働事務次官

【プログラムNo.6】社会福祉施設等を元気にする生物資源の活用
～高齢者の生活の質の向上から野生動物の
皮革の利用まで

2. 東3・6ホールにて、先着順・自由参加でのセミナー

【プログラムNo.7】はじめての福祉機器 選び方・使い方
セミナー [東6ホール・特設会場C]

【プログラムNo.8】高齢者むけの手軽な日々の食事
～惣菜やレトルト食品をおいしくバランスアップ
[東3ホール・特設会場A]

● H.C.R.特別企画

(講座・製品展示・相談・デモンストレーション、いずれも自由参加)

3. 東3ホール内

【プログラムNo.9】障害児のための「子ども広場」
[特設会場A]

【プログラムNo.10】ふくしの相談コーナー [特設会場A]

【プログラムNo.11】高齢者・障害者等の生活支援用品コーナー
～旅を楽しむ「10のコツ!」と便利なグッズ展～
[特設会場A]

【プログラムNo.12】福祉機器開発最前線 [特設会場A]

4. 東6ホール内

【プログラムNo.13】アルテック講座2014
～身の回りにおけるテクノロジー (アルテック) で
創る豊かで楽しい生活 [特設会場B]

【プログラムNo.14】被災地応援コーナー
[東4ホール内、小間番号：4-08-05]

● 出展社プレゼンテーション

※出展社プレゼンテーションの詳細については、別紙「出展社プレゼンテーション・プログラム」をご参照ください。

「Mountain」 曾谷 朝絵 画

履歴

絵画やインスタレーション、映像と、ジャンルを超えて活躍するアーティスト。2006年、東京藝術大学大学院博士後期課程美術研究科にて博士(美術)取得。『第6回昭和シェル石油現代美術賞展』グランプリ(2001)、『VOCA展2002』VOCA賞(グランプリ)をはじめ、『横浜文化賞文化・芸術奨励賞』、『神奈川文化賞・未来賞』(2013)など多数受賞。2013年には、大規模な個展『宙色(そらいろ)』を水戸芸術館にて開催し、大好評を博す。2014年には、『聯覚(Synesthesia)』AKI Gallery(台北)や、パブリック・ビューイング『浮かぶ』神奈川芸術劇場、など、全国で展覧会を開催。現在、文化庁新進芸術家海外留学制度研修員としてNYのISCPにて制作活動を行っている。

公式サイト: www.morning-picture.com

作品について

この作品が描き上がったときは不思議な感じで、自分で苦労したというよりも、絵の方から寄って来てくれたように、すんなり出来上がった。苦労した作品よりも、そうしてすると出来た作品の方が、実はいつでも出来が良い。

山を描いているが、本当は何に見えても良く、描いたのは絵画の楽しさである。ここではキャンパスを何かに変質させるためではなく、色が色として、絵の具が絵の具として、そのまま存在している。絵の具を混ぜた瞬間の驚き、描くときの筆のスピードによって、その線が変わってくる、生の色の生命感。それら絵を描くときに感じる様々な事象を直感的な判断によってコントロールすることで絵が生成されていく過程を、なるべく生のまま閉じ込めた絵を描きたかった。その過程は、とてつもなくスリリングで、そして楽しい。

私はそんな絵画の楽しさにずっと導かれてきたから、この絵が来てくれたのかもしれない。だとすると、この絵は子供の頃からずっと親しくしていた友達のような存在だ。今回、この作品がポスターとして多くの場所に掲示いただけるという。絵画の楽しさが街に伝染すると思う。それは生きる楽しさにも通じると思ふ。

福祉機器展示ゾーン (News 20ページをご覧ください)

東1～3ホール



東4～6ホール

